

## 佐藤卓利教授退任記念論文集の刊行にあたって

経済学部長・経済学会会長 河音琢郎

佐藤卓利教授は、2020年3月を以て定年により立命館大学教授の職を全うされ退かれます。佐藤卓利先生は、本学立命館大学経済学部をご卒業後、立命館大学大学院経済学研究科に進まれ、1984年に博士課程を単位取得（満期退学）の後、1985年4月に広島女学院大学に専任講師として赴任され、本学部には1997年4月に助教授として着任され、1999年4月には教授に昇任されました。佐藤卓利先生は、2008年に自身のご研究を『介護サービス市場の管理と調整』（ミネルヴァ書房）として刊行され、本書において2009年11月に京都大学にて博士号（経済学）を授与されておられます。立命館大学および経済学部においては、22年間という長きにわたって教育・研究の発展のためご尽力をいただきました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

立命館経済学会では、上記のような佐藤卓利先生のご功績をたたえとともに、そのお人柄を敬愛し、『立命館経済学』において退任記念論文集を編纂、発行することといたしました。

佐藤卓利先生のご研究は、社会政策論の分野において、生活者の視点に立ったご研究を進められ、そうした視点から社会福祉、さらには介護サービスの研究へと収斂され、その成果を前述の博士論文にとりまとめられました。以後も介護サービスのあり方について、地域や職場の実態に即した丹念な実態調査に基づいて、旺盛な研究を進めてこられました。こうした佐藤卓利先生のご研究の成果は本記念論文集の末尾に記されています。

佐藤卓利先生は、上記のような研究成果をベースとして、社会政策学会の幹事（2010～2012年）として学会の発展に寄与されるとともに、草津市では地域福祉推進市民委員の委員長（2009年～）、草津市あんしんいきいきプラン委員会委員長（2009年～）、京都地方最低賃金審議会委員（2014年～、2017年より会長）、滋賀県職業能力開発審議会委員（2016年～、2018年より会長）など、地方自治体での委員を務められるとともに、乙訓医療生活協同組合理事（2017年～、2019年理事長）など地域福祉団体の役員としても、福祉分野での地域貢献に尽力されてきました。

佐藤卓利先生は、本学教育では、学部では社会政策、生活経済、地域福祉論などの専門科目を担当され、多くの学生、大学院生を教育、指導されてきました。特筆すべきは、大学院において多くの大学院生の指導に熱心にとり組まれ、後進となる研究者を育てられたことにあります。

先生は、こうした研究、教育面のみならず、本学の大学運営でもご活躍されてきました。1999年度の本学部学生主事を皮切りに、生涯学習担当主事（2003年度）、教学・企画担当副学部長（2009～10年度）を歴任されるとともに、2017年度からは本学の社会システム研究所の所長を務められました。また、社会政策、地域福祉論という先生の研究のご専門も活かされ、立命館大学教職員組合では2度にわたって委員長を務められたほか、立命館大学生協同組合理事長としても

2年度にわたりご活躍されました。

総じて、佐藤卓利先生は、自身の社会政策、地域福祉分野での旺盛な研究活動を基礎として、その成果をご自身の研究のみならず、教育を通じた後進の育成に、本学の広い分野での大学運営に、さらには地域社会、学会での貢献に活かし、ご活躍されてこられました。

佐藤卓利先生は2020年4月以降も特任教授として本学の教育・研究を引き続き支えていただけると伺っております。先生はご壮健で、研究・教育への情熱はますます盛んであるとお見受けいたします。今後とも後進へのご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。先生の益々のご健勝とご活躍を祈念し、本記念号刊行にあたってのご挨拶といたします。